

2021(令和3)年度

自 2021(令和3)年 4月 1日

至 2022(令和4)年 3月31日

事業報告書

認定 特定非営利活動法人

北海道自由が丘学園・ともに人間教育をすすめる会

目次

I. 総会に対する社員(含理事)名簿

II. 事業報告書

1. 事業状況～概要、経過
2. 教育実践、諸活動
3. 組織及び執行体制
4. 庶務に関する事項
5. 各事業～定款項目別

III. 決算書

1. 活動決算書
2. 財産目録
3. 貸借対照表及び当期収支差額の処分

IV. 監事の意見書

V. 役員／体制(社員名簿、2022(令和4)年度事業方針・同予算)

2021(令和3)年度事業報告書 (2021(令和3)年4月1日～2022(令和4)年3月31日)

認定 特定非営利活動法人
北海道自由が丘学園・ともに人間教育をすすめる会

1. 事業の状況

【概要】

1998年夕張プレスカールの実践を受け'03年にNPO法人認証、以降は定款・設立趣意書に掲げた教育及び各分野活動を基本に、'07年度より新たな展開＝「既存学校法人との“協同＝教育連携”を開始（共育の森学園の再建支援）しました。また'09年度より地球温暖化に対応した《エコハウス》を推進し独自集会や他団体との共同企画を継続しています。

'10年度以降は実践を基盤に、'13年度/15周年行事・認定NPO法人取得、'14年/エコハウス道新エコ大賞奨励賞、'14-15年/『雪国札幌発ECO防災教室』実施&冊子発行、'17年度は20周年イベント・WAM助成モデル事業「つきさつぷり寺子屋」を展開、'18-19年度はスクール初等部拡充・WAM居場所事業継続に加えて、「自由な小学校運動」を各地集会で加速させ自治体交渉&協定書締結、'20以降はコロナ渦の中で、基本となるスクールと居場所事業を持続し、'21秋には道審議会より「小学校認可の計画了承」を得る所に到達しました（認可運動は開校を担うNPOまおい学びのさとにより展開。本体NPOはそこと連携しつつ'22秋の学校法人認可申請にむかいます）。年間の推移概要は以下の通り。

【第17年度の経過】

(敬称略)

2021(令和3)年

- | | |
|----------|---|
| 3月 | 3/20「卒業・修業のつどい」《小1名、中1名卒業》 |
| 4月 | 「 <u>フロンティア261号</u> 」：代表理事・大塚
『北海道自由が丘学園の新年度スタート—今年も“子どもたちが主人公”を貫いて—』
4/7：スクール新学期スタート、4/14：円山登山、4/30：特別行事・身体測定 |
| 5月 | 余市農業実習（余市教育福祉村/畑借用）—5/12：畑起し、5/18：苗植え
「 <u>フロンティア262号</u> 」：吉野 正敏・認定NPO代表理事
『「ビジョンハッカー・・・」、私たちの目ざすもの—明日に架ける橋のように—』 |
| 6月 | 6/10：初等部・西岡水源地探索、6/14：余市農業実習—草取り、支柱立てなど
6/24・25：特別行事（1日目は全員で平岡公園、2日目は月寒公園まで遠足《中》、海水浴《初》） |
| 7月 | 7/02：父母会、7/09・12：文教大学生実習、
7/15・16：特別行事—余市農業実習、石狩で海水浴
「 <u>フロンティア263号</u> 」：細田孝哉—NPO法人まおい学びのさと・代表理事
『「あちら側とこちら側、非寛容を越えた教育を」』
7/20：スクール終業+夏期講習《21～22》 *（自由な小学校）7/24：堀さんの講演会実施（参加100名） |
| 8月 | 8/24：スクール2学期スタート、 |
| 9月 | 9/01：余市農業実習（初等部だけで収穫作業）→9/16：食育（カレー・グラタンで昼食）、
「 <u>フロンティア264号</u> 」：吉田 弘—認定NPO法人・監事 『「今、地球温暖化をくい止めなければ・・・」』
9/29：藻岩山登山、 |
| 10月 | 「 <u>フロンティア265号</u> 」：吉野 正敏・認定NPO代表理事
『「不登校生徒急増：全国20万、道内9千人」～彼女らの学習権、成長を支援するために～』
10/10：さつぱろ子育て教育フェスタ—オンライン
10/20・21：修学旅行《室蘭・伊達・洞爺》、初等部は特別行事（プール/泊り会/小樽博物館・水族館） |
| 11月 | 「 <u>フロンティア266号</u> 」：河野和枝—さつぱろ子育てネットワーク
『「居場所をなくす若年女性たち～詩梨ちゃん事件の背景～」』 |
| 12月 | 12/9・10：特別企画～生徒授業・コンサート・泊り会（中学生）・ゲーム大会…など
12/11：NPO理事会、12/20：スクール終業+冬期講習《21～23》 |
| 令和(4)年1月 | *1/8：講座第1回「私たちの《基本的人権》を問う！」〔道地域自治体問題研究所との共催〕
～若年女性の貧困、ジェンダー、子ども達の権利/学習権、
1/19：スクール3学期スタート、1/29：年次説明会— |

「フロンティア 267 号」：認定 NPO 法人・常勤理事会

『まおい学びのさと小学校：道審議会にて「計画了承」！』～「新たな自由と協同の学び舎“づくり！”～

2 月 2/1：北大生インターン実習始まる、2/7～10：学生実習：教育大札幌、

「フロンティア 268 号」：大塚 勲—認定 NPO 法人代表理事・学園長

『北海道自由が丘学園の「自由」を考える』

3 月 3/4・5：父母会 *3/12：講座第 2 回～性的マイノリティ、交通移動の権利、住民自治

「フロンティア 269 号」：吉野 正敏—認定 NPO 法人代表理事

『戦争と平和、戦争と人間など～国家の暴力＝軍事を超えて』

3/18：3 学期終業、3/19「卒業・修業のつどい」小 2 名、中 6 名卒業（それぞれ高校進学）

4 月 4/7：22 年度新学期スタート

「フロンティア 270 号」：田中 傳右衛門—株式会社和光・会長 『居場「謙虚な自信」について』

2. 教育実践、諸活動

[分掌、運営]

1) 基本体制 *別紙「カリキュラム」他

◎NPO 本体 常勤役員 4 名、吉野、大塚、廿日岩(鈴木)、社員 名、滑川、奥村、尾田、齋藤、(北・川島)

◎スクール 学園長：大塚～常勤/フル 3 名、3 日 2 名、2 日 2 名・・・ *2021 年度より大塚はフル勤務。

◎GAOKA 塾 責任：大塚、滑川・・・4 月現在：中学生 2 名、◎事務 尾田(+廿日岩)

◎ボランティア 社会人、学生、留学生・・・主に初等部に複数(有償型)～尾田、山田、タン、他

2) カリキュラム&担当

<学科> <総合型>

◎日本語：大塚、◎地球に生きる科：大塚 ◎表現科、◎もの作り：齋藤、

◎数 学：大塚、◎人間科、ワクワク学習：吉野+ゲスト/細田、吉田

◎社 会：滑川/歴史、◎やってみる科：滑川他 *初等部：常勤/奥村、引木

◎理 科：大塚・滑川、◎英語：大塚+留学生 ◎体育：全員 ◎各種行事：常勤+サポーター

3) 学期(末)対応

・月次 学校：出欠案内。期末：通知表「成長の記録」：記述 A4 記述 3～5 枚。年度：「記念作品」制作など

4) 付加、関連業務

◎IT～HP 管理(北)山田齋藤 ・環境設定、パソコン保守：(アルプサポート/寺下)、機器更新：W-7.8.10+内部 XP

◎事務所維持(清掃、台所、外周他) ・冬季対応～暖房/レフトストップ、水道(冬季)、省エネ/各階、除雪)

◎助成 1)札幌市：付加スタッフ・体験メニュー、2)サポートホト：(半額負担)、3)募金会：普及、4)WAM：居場所

[普及、協同]

1) 普及活動

◎普及全般 年次パンフ：「スクール」2 種、「NPO」版+「GAOKA」チラシ～通信折込み・集会配布、休 3 店舗・エブリザ

◎相談会等 「月次」企画：ホームページ、建物掲示板など、チラシ～上記同様+地域連携団体

◎イベント ◆道民教：[札幌集会～個別対応]、(→以前は、不登校分科会・・・合研・・・親の会・・・*コロナ渦)

<外部> ◆さっぽろ子育て教育フェスタ：[毎年 10 月、実行委員/大塚+他、展示・分科会運営→「報告集」]

◆社会教育フォーラム：[(北大社会教育研究室) *韓国ブル学校接点、弘前大/宋他

◎通信発行 No.261-270 号～年次 8 回、会員 400 名弱+エブリザ等配架、郵送/郵便局契約(値上+持込)+手渡し

2) 大学、教育機関連携

◎実習受入れ ・教育大釧路/教育内容方法研究室：従来年 4 回 ⇒年 1 回 12 月。*2 カ年年中止

・ ↓ 札幌校/池田研究室：2-3 月、学生 5 名により 4 日間。

・文教大/人間科学部：吉岡研究室、5-6 月学生 10 名規模。

・居場所「寺子屋」⇒本年も自力型～不定期に学生・元教師・社会人など出入り

◎共育の森学園 吉野・田中理事、(間宮理事長)～継続中。高校生確保「80 名規模」(看護学校譲渡完了)

<政策テーマ> ・自由が丘推薦の高校進学～H25/3、H26、H27/1、H28/1、H29/1、H30/0、・・・R3/1、

・旧短大=2 千坪施設活用法模索～現在テナント、随時地域スポーツ貸出し・・・

2) 他団体 [都度調整]

- NEPA 新エネルギー普及促進協会：「冊子」協力、NERC/コンサル：Y相談役、
- 余市教育福祉村：農場利用・Y/顧問～今後体制、利活用検討 *「教育による地域活性可能性」⇒**畑利用+α**
- 地域・自治体問題研究所：(河野理事長)Y 理事、*教育/共通テーマでの講座・分科会企画⇒**「講座」開催中**

【特記/再掲】【「エコハウス」の取り組み】 [再々掲]

- 2010：北海道「グリーン・ビズ事業所」認定、2012：札幌市環境賞「優秀賞」受賞、
2014：北海道新聞エコ大賞「奨励賞」受賞、* [道環境教育学会～経由] 月刊「工業教育 3月号」寄稿
2014-15：さっぽろ発「ECO エネルギーで防災教室」11.2月2回実施、北大・天使大の教官協力
- ◆2011.3/11 原発事故以後、自然エネルギー導入が大事な社会テーマ。加えて脱原発は環境保全&地域再生の21世紀的課題。
 - ・視点① 北海道の条件～一次産業・地域振興と結合したフロンティアへ ==> **自由が丘；都会での“先進基地”**
 - ・↓ ② 泊・大間原発～活断層・プルトニウム・温排水・廃棄物+受入調査自治体 => **停止、廃棄への可能な接点・連携**
 - ◆自由が丘センターの現状 注：自家発電はまず建物消費 → 余剰分は売電(不足は買電:コープ電力切替)
 - ・【ソーラーパネル】 → 小さいけれど市民発電所、**電気約 50-60%削減**+省エネ生徒パル。14年完済
 - ・【ペレットストーブ】 → 冬季暖房の環境負荷低減中、**バイオマス資源の地産地消推進** 苫小牧メーカ
 - *トータル CO2約▲70%、引続き環境教育や地域開放=サテライト促進。～HP、市民講座、研究機関連携へ
 - ・【照明 LED化】 → **蛍光管約 90%LED=従来機器寿命・省エネ⇒電気代△80%・15年保証・×虫・×破損**
 - ◇今後、将来展望 *長野、宮城など各地取り組みあり *夕張の土地/転用可能性・・・

- ・100%自然エネルギーの施設 ⇒ 追加的ソーラーパネル導入、雨水利用、(屋上)緑化、省エネ・・・
- ・暖房・発電の市民ファンド展開 ⇒ 市民からの基金蓄積→導入施設募集/教育文化団体→融資/回収

3. 組織及び運営・執行について

【概要】

基本となる教育実践・普及活動・エコハウス推進、他団体連携等により、自由が丘理念の具現化に努めてきました。通常は月寒スクールを基盤に、「子ども達が学び・成長する主体」の学び舎・運営を持続しながら、週末型の地域居場所=寺子屋/お家・実家/カフェ展開も自力型で継続しました。(初等部生徒増加中。居場所は各 20.25回ほど開催)

普及活動では引き続きコロナ渦で教育集会などの企画開催や参加を抑制しながらも、自由が丘の“創立時精神”再度掲げた『新たな小学校設立運動』を発信連携してきました。組織面では13年『認定 NPO 法人』認可5年後更新を18年達成、他方で助成事業受託は厳しくなっています。(寄付特典/還付で財務プラス反映という大きな成果につなげる作業は先送り)

(1) 会員の推移

1)正会員：会費を、個人 5,000 円・団体 50,000 円納入。役員 10(20年11)、社員 9(〃8)、下記は納入者。

①役員：10名(監事含、過年納入含) ②社員：8名(+1名新規) ③法人：7団体中、継続6団体
和光(2回)、秀岳荘(2回)、岡本建設、知床第一ホテル、幌村建設、(佐々木総業)、りんゆう観光、**小計 25名・社**

2)賛助会員：会費を、④個人 3,000 円、⑤法人 20,000 円納入

④「：189」 ⑤法人：「3」(株新倉屋/2万、弁護士事務所他、**小計 192名・社、①-⑤合計：217名・社**

3)寄金⑥：会費+加算納入：納入+2000～7,000円以上など～大口/赤塚、井上、鳴海、宮、他 **小計：(72)名**

*現状は2)扱い、希望により1)の②へ転換。 *前年は2)・194名、①～⑤計214名。

(2) 会員の構成、拡充

1)正会員 ・役員社員～元発起人、会員有志、理事紹介、スクールスタッフ等。

2)賛助 〃 ・通信購読～スクール父母、教育関係者等(居場所関係者)。*他方、逝去や「高齢者」区切り申し出・・・

(3) 執行体制

◎役員(敬称略) ・代表理事 2名、理事 9→9名、監事 2→2名、内訳：代表/吉野・大塚、副代表/田中(非常勤)、
・執行部：代表理事、分掌理事、常勤スタッフ、 : 監事/吉田・廿日岩、

◎基幹会議 ・勤務員会議：事務局メンバー週次 ・(常勤) スタッフ会議；月・金曜 ・月次スタッフ会議/月末
・その他会議：学期区切り研修付加。ボランティア=サポータースタッフとの情報共有。

4. 庶務に関する事項

1) 北海道庁(監督官庁)等への申請など

・2021年 5月、総会承認事項、所管/札幌市(+登記手続きはなし)。認定 NPO 法人/別書類一式

2) 第1回理事会：2021年5月22日開催(総会時)【出席】6+2名、(委任状8/法人含)、スタッフ/社員同席

3) 第2回理事会：2021年12月 9日開催(研修兼)【出席】5+2名、(〃1)、スタッフ/社員同席

5. 各事業：定款活動分野による記載。(ほぼ重複)

第1/子ども・青年の教育機会提供・支援、第2/各種研修企画、第3/教育相談、第4/協同交流、第5/広報・出版活動。

1) 学習活動への援助：各スクールの授業・行事の企画提案、運営、参加。

- ・スタッフ支援；教科担当など約3～5名分をサポート。初等部門＋教科。他に団体や講師受け入れ対応等
- ・学生受入れ：釧路教育大実習～例年12月/2ヵ年中止(通算102回)、他大学等/北大・文教大・教育大札幌校。

2) 教育推進者支援：スタッフと役員など支援者・推進者むけ研修。

- ・役員、スタッフ研修会開催；学期 or 半期単位、(独自企画、外部企画参加)・理事会併催；新しい小学校運動
- ・(一般向け)教育研修開催；(教師塾～教育大/年1回)、寺子屋研修会/年1～2回、大学生・若手スタッフも対象

3) 教育相談：月次案内、個別相談受け入れ。専門家連携。

- ・年次説明会開催；1.2.3月。月次相談会；各2回＋体験会、個別；随時電話等の相談対応。見学日；隔週水曜
- ・案内、受付；月次/ホームページ、チラシ(配布先下記6))、建物掲示板 * 進路指導～高校情報(+見学引率)

4) 協同交流活動：他団体/集会の事務局対応・役員引受(+独自企画)。

- ・民間教育集会の運営分担・レポート；札幌子育てフェスタ/実行委員(事務局)、月寒九条の会/世話人、つきさつぷP/メンバー
- ・民間連携；余市教育福祉村/顧問、道地域・自治体問題研究所/理事、共育の森学園/理事、(地域婦人・科学者・商工)

5) 研究・講座等：(研究所包括テーマ)

- ・実践記録を通信等に紹介；教育大授業レポート、教育エッセー、発達支援報告、 * 独自企画：自然エネルギー普及「エコハウス」
- ・ブックレット：北海道発教育提言 No.1-11+「雪国 ECO 防災教室」。 * 通信「巻頭言等編集＝普及用」検討

6) 広報・他：

- ・「通信」定期発行：年次9-10回、活動支援グッズ=物販、ホームページ更新：新スタイル発信/父母協力実践ページ
- ・独自パンフ等：年次作成、エアー配布/地域団体折込み、エブリサ=市民活動センター・イオ店舗/常設。* 公的助成/市他

【25周年企画】

- ◎ 教育実践の節目＝四半世紀として、「教育活動＋普及活動＋まおい連携」等を企画できれば。
- ◎ コロナ収束具合を鑑みながら、いくつかの組み立ての中でそれぞれの当事者/関係者が参加共有できるもの。
- ◎ 特に、新しい(教育)小学校開校にむけての大イベントを地域社会に発信していきたい。

[NPOまおい学びのさと：22方針より] ⇒ 6月、11月に「北海道に自由な教育をセミナー」を検討中

<0.1 次案>

主体・名称	<参加対象、趣旨など>	概要
(1) スクール：学園祭	地元住民・会員・生徒父母むけ	売店、展示、発表、バザーなど
(2) NPO：集会	A) 記念講演～学識者 or 当方、	B) まおいイベント～現地
(3) ()：総合学習	①00体験～自然&生活を…	トムソーヤ助成で初等＋α
	②□□↓ ～もの作り&地域…	夢寄金助成で中学生＋α
(4) 研究所：書籍	「記念誌」発刊 ～従来フロンティア記事から	⇒PR型冊子か、
(5) その他：資金形成	クラファン/レディフォーよりの「提案書」を受けて…	

- ・5(-6)月に検討し、(6-)7月から決まったものから準備していきたい。

財産目録

2021(令和3)年度特定非営利活動に係わる事業会計財産目録

2022(令和4)年3月31日

認定 特定非営利活動法人
北海道自由が丘学園・ともに人間教育をすすめる会
単位:円

科目・摘要	決算額		備考
I 資産の部			
1 流動資産			
現金	118,871		
預金	4,592,976		北洋銀行 4,374,830、労金
流動資産計		4,711,847	3,093、郵貯銀行 215、053
2 固定資産			
備品等償却資産		55,000	
固定資産計		55,000	
資産合計			4,766,847
II 負債の部			
1 流動負債			
繰越収支差額			
前受金	1,342,500		22年度会費
短期借入金	520,000		
出資信託金	890,000		
預り金	209,669		
流動負債計			2,962,169
2 固定負債			
固定負債計			
負債合計			2,962,169
差引正味財産			1,804,678

貸借対照表

2021(令和3)年度特定非営利活動に係わる事業会計財産目録

2022(令和4)年3月31日

認定 特定非営利活動法人
北海道自由が丘学園・ともに人間教育をすすめる会

単位:円

科目・摘要	決算額			備考
I 資産の部				
1 流動資産				
現金	118,871			
預金	4,592,976			北洋銀行 4,374,830、労金 3,093、郵貯銀行 215、053
流動資産計		4,711,847		
2 固定資産				
備品等		55,000		
固定資産計		55,000		
資産合計			4,766,847	
II 負債の部				
1 流動負債				
前受金	1,342,500			22年度会費
短期借入金	520,000			
出資信託金	890,000			
預り金	209,669			
流動負債計			2,962,169	
2 固定負債				
固定負債計				
負債合計			2,962,169	
			(1,804,678)	
III 正味財産の部				
前期繰越正味財産	986,320			
当期正味財産増加額	818,358			
正味財産合計	1,804,678			

注: 個別寄附(団体分 17 万、法人 100 万)、寄贈(遺産 50 万)あり、その相当分(約 50%)が財産増となった。
(事務所代は通期 4-3 月分支払い。(昨年度は 12-3 月分研究所負担) 尚、短期借入は繰越とした。

3. 当期収支差額の処分

当期収支差額 1,804,678 円は、次期繰越とする。